

三田市下水道ビジョン（案）に対する市民意見の募集結果と意見に対する市の考え方について

1 実施概要及び結果

(1) 実施期間 平成29年9月21日（木）～10月20日（金）

(2) 閲覧方法

①下水道課、市民情報ひろば（市役所本庁舎1階）での閲覧

②各市民センター等での閲覧（市内10カ所）

③市ホームページでの閲覧

(3) 意見の提出方法

郵送、ファクス、電子メール等

(4) 意見件数 10件（1人）

2 意見の概要と市の考え方

No.	ページ	項目	意見内容（要約）	市の考え方と対応
1	1	第1章 下水道ビジョン策定の趣旨と計画の位置づけ	これからは施設を「つくる」時代でなく、「維持管理、更新する」時代を迎えるので、この問題にいかにか上手く適切に対応するかが重要です。	ご意見のとおり、今後の下水道維持管理の指針となる本計画に基づき、課題解決を図りながら、適切な事業経営に努めてまいりたいと考えております。
2	10	3-2. 雨水整備の状況	6年確率降雨強度（46.8mm/hr）は、計画値ならば最近の豪雨からみると低いので、計画値のUPを検討願います。また、計画値を達成していないのであれば、現状値を記載する必要があると考えます。	降雨強度は、浸水による社会的・経済的な被害の大きさや地域特性など総合的に考慮した計画値です。市が下水道事業で整備した雨水管路は、全て6年確率降雨強度で整備しており、武庫川の水位が高い場合における逆流を除き、近年の豪雨でも問題なく排水できています。 そのため、現在のところ計画値の変更は考えておりません。

3	31～ 33	5-2. 浸水対策の推進	<p>雨水対策には大きな費用がかかるため、休耕田等を貯留池として活用することや調整池、貯留池の増設を検討・実施してください。また、浸水対策施設で掲示板を設置するなど、もっと市民へPRをすべきと考えます。</p>	<p>阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画において、流域対策として校庭貯留や農地などの雨水貯留を行うこととしており、校庭貯留施設は市内の4県立高校で整備されています。農地については、地域の理解と協力を得たうえで取り組んでいくこととしております。PRについては、計画中の「事業・経営の見える化」の中で強化を図りたいと考えております。</p>
4	10・ 31	3-2. 雨水整備の状況 5-2. 浸水対策の推進	<p>文言表記について、「雨水整備」と「浸水対策」は、市民にとって「浸水対策」という表現がわかりやすい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、適切でわかりやすい表現として、「雨水整備（浸水対策）」に統一します。</p>
5	16	3-4. 維持管理の状況	<p>下水道長寿命化計画にポンプ場電気設備更新の記載があるが、設備更新については、機械設備に機能・省エネ・省スペースなど格段の進歩がみられ、その規格に見合った電気設備を選定する必要があることから、電気設備だけでなく機械設備と合わせて実施すべきです。</p>	<p>ポンプ場の機械設備はまだ新しいため、電気設備のみの更新計画をH25年に策定したものであります。今後策定する長寿命化計画については、ご意見のとおり、機械設備と合わせて策定していきます。</p>
6	39	5-4. 効率的な施設管理の推進（計画的な点検・調査、効率的な改築・更新）	<p>早期に全施設を対象としたストックマネジメントを実施し、財政状況が悪化する傾向の中で、更新費用の平準化を図る必要があります。</p>	<p>全施設を対象としたストックマネジメントの計画策定を進めておりますので、ご意見のとおり、更新費用の平準化を図り、財政の健全化に努めてまいりたいと考えております。</p>

7	42	5-6. 経営健全化の実施	費用削減から民間委託は避けられないと思うが、ベテラン技術職員の退職を迎える中、マニュアル化など若手職員への技術伝承が必要です。また、民間委託する場合でも、任せきりにする状態は避けなければなりません。	ご提案を参考にさせていただき、維持管理ノウハウなどの知識と技術の継承に取り組んでまいります。 また、民間委託につきましても、ご提案のとおり、市の責任のもとに取り組んでまいります。
8	28	4-2. 基本方針	「下水道使用料を改定します」という表現は、最大限の削減努力をし、その内容を公開したうえで改定を行うのが筋道と考えるので、「コスト削減等の検討を行ったうえ、必要な場合下水道使用料の改定を検討します」がふさわしい。	「下水道使用料を改定します」の文言の前に「事業の効率化などにより、経費の削減を徹底して行い、なお財源が不足する場合は」の文言を追加します。
9	40	5-5. 施設機能の検討・実施	「藍コミュニティ・プラントを公共下水道に接続する事業」は推進すべきであり、志手原、有馬富士浄化センターも統廃合が可能ではないかと考えます。	志手原、有馬富士コミュニティ・プラントを含め、他の処理区域についても今後の人口減少などの状況に応じて、施設統廃合の検討を行っていく必要があると考えております。
10	39	5-4. 効率的な施設管理の推進（計画的な点検・調査、効率的な改築・更新）	すでに実施されているかもしれませんが、遠隔監視・操作で無人化、省人化を図るべきです。	無人化、省人化につきましては、遠隔監視システムを導入しております。